

編集後記

新年号のスタートと合わせて、昨年より5月刊行とし、サイズもB5判からA4判へと大型化しましたが、今年より誌名を『宇都宮共和大学都市経済研究センター年報』とし、内容もまちづくり活動や産官学連携分野により特化したものにリニューアルしました。

本号の巻頭の特集1では、2019年7月に宇都宮シティキャンパスで開催されたシティライフ学シンポジウム「SDGs未来都市・うつのみや」の様相を収録しました。横浜国立大学都市イノベーション学府・研究院客員教授 信時正人氏、株式会社竹中工務店アドバンスデザイン部ランドスケープグループ長 向山雅之氏にお越しいただき、ご講演をいただいたうえで、宇都宮市政策審議室室長 神永正之氏、株式会社岡田建築設計事務所専務取締役 岡田豊子氏、東京ガス株式会社宇都宮支社長 吉田範行氏の3氏を交えて、「『SDGs未来都市・うつのみや』～持続可能な宇都宮都市圏を目指して～」と題したパネルディスカッションを行いました。「SDGs」とまちづくりを考えるという、時宜を得たテーマを採り上げることができました。

特集2では、2019年12月に宇都宮シティキャンパスで開催された「とちぎの新インバウンド戦略 — 地域資源でおもてなし」シンポジウムの様相を収録しました。基調講演では、「外国人から見たとちぎの魅力とインフラ整備とは」について、元社団法人日本ホテル協会会長 中村裕氏、ザ・リッツ・カールトン日光総支配人 細谷真規氏、株式会社大田原ツーリズム代表取締役社長 藤井大介氏に、それぞれのご専門分野からお話を頂きました。基調講演者に、栃木県副知事 岡本誠司氏、オトワレストラン・オーナーシェフ 音羽和紀氏、ジャパン・ワールド・リンク株式会社代表取締役 宮地アングス氏の3氏を加えたパネルディスカッションでは、「地域資源を磨いておもてなしするために」についてのパネルディスカッションを行い、地域資源を活用したインバウンド戦略の新たな方向性について考えることができました。

このほか、都市の生活・経済・まちづくりを学ぶシティライフ学部にあふさわしい、地域の研究活動について、「研究ノート」7編が寄せられました。お忙しいなか、玉稿をお寄せいただいた皆さま方に厚く御礼申し上げます。

また、2019年度は、シティライフ学部学生による活動報告やまちづくり提案が研究発表会で各賞を受賞するとともに、宇都宮市長と意見交換する機会を得るなど大きな成果が得られた一年でもありました。年報のうち、「学生提案成果報告」では、本学学生からのまちづくり提案等を多数掲載しましたので、ぜひご一読ください。

これからも、宇都宮共和大学都市経済研究センターは、「市民社会に開かれた大学」の一翼を担うため、都市の生活科学（シティライフ）を学際的・実証的に調査研究するとともに、まちづくり、市民公開講座、講演会、セミナー、NPOとの連携など多様な活動により、地域社会や都市の発展に貢献することを目指して活動していきたいと考えております。今後とも、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(都市経済研究センター運営委員長 (2019年度) 吉田 肇)

都市経済研究センター年報・第20号

発行日	2020年5月31日
編集・発行	宇都宮共和大学都市経済研究センター 〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り1丁目3番18号 TEL 028-650-6611 FAX 028-650-6612 E-mail rcenter@kyowa-u.ac.jp Website http://www.kyowa-u.ac.jp
印刷	株松井ピ・テ・オ・印刷 〒321-0904 栃木県宇都宮市陽東5丁目9番21号
定価	1,000円（消費税込み）